

令和5年度 石見銀山基金事業

石見銀山學習概要報告集

班別

- 【1班】第一中学校・大田小学校・長久小学校・川合小学校・久屋小学校
- 【2班】第二中学校・五十猛小学校・静間小学校・鳥井小学校・久手小学校・朝波小学校
- 【3班】第三中学校・大森小学校・高山小学校
- 【4班】北三瓶中学校・志学中学校・志学小学校・北三瓶小学校
- 【5班】大田西中学校・仁摩小学校・温泉津小学校

大田市校長会
石見銀山課
NPO石見銀山協働会議

1 班

校 校 校 校 校

学 学 学 学 学

中 小 小 小 小

一 田 久 合 屋

第 大 長 川 久

大田市立第一中学校

令和5年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 3年生・138名

2. 実施時期 令和5年10月～12月

3. 学習のねらい

- ① 身近にある世界遺産の価値や魅力、地域とのつながりについて理解を深める。
- ② 石見銀山が地域の遺産としてあるべき姿について考え、魅力の再発見に努める。
- ③ 現在の世界遺産としての価値を理解しながら、今後石見銀山とともに生きる方法を考える。

4. 学習内容

〈事前学習〉

- ①石見銀山を含む世界遺産の意味および学習のねらいを知る。（ガイダンス）
- ②石見銀山についての講話を聞く。（講師：石見銀山資料館館長 仲野義文氏）
- ③石見銀山の特色や価値について調べ学習をする。（図書館活用教育）
- ④住民の方々へのインタビュー内容を確認する。

〈現地学習〉

- ①様々な訪問先で銀山を生かした地域振興活動や、地域振興への思いを聞く。
- ②調べ学習で疑問に思ったことや、質問したいことを、インタビューする。
- ③「真の意味で石見銀山を守る」というテーマで班ごとに活動し、ガイドの方の話を聞く。

〈事後学習〉

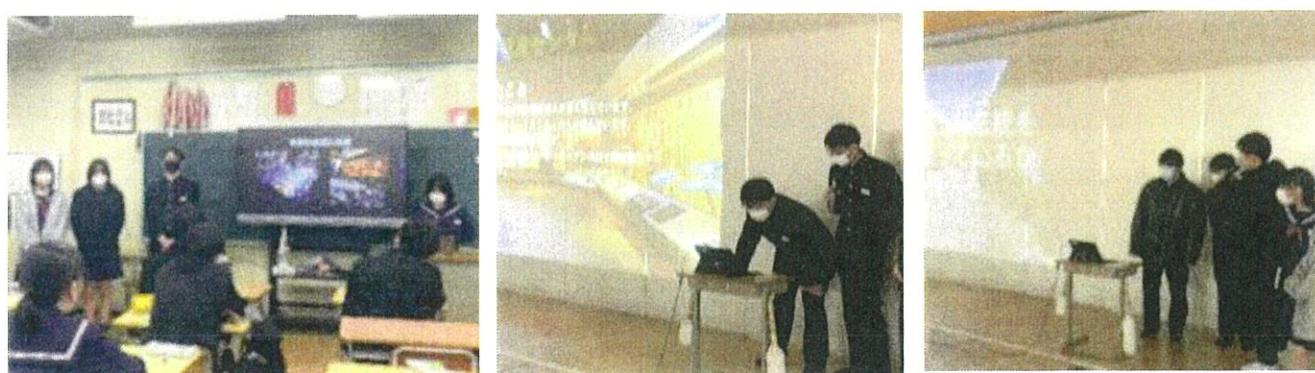
- ①調べ学習、現地学習をもとに、石見銀山を生かした地域振興に携わる方々の思いを聞いてまとめ、プレゼンテーションソフトを使い発表を行う。
- ②これまでの学習を振り返り、地域振興への思いを深めるとともに学習に対する個人の感想を持つ。

5. 実際の学習の様子

～現地学習～



プレゼンテーションソフトを使った発表会の様子



～生徒の感想～

- ・知らなかつたことが、実際に行ってみることで分かり、現状も知ることができてよかったです。昔の風景を保つことは難しいけれど大森は保つていてすごいと思いました。これからの大森をどう発信していくのかを考えることができました。たくさんの観光客に来てもらいたいと思いました。
- ・今まで、小学校でも石見銀山について勉強してきたけれど、今回は今までとは違う視点で石見銀山について調べたり考えたりすることができました。今回、大森に行って、外国人観光客が多いのに、日本の若者は少ないなと思いました。だから石見銀山をPRする方法を、みんなで考えて実行することが大切だと思いました。
- ・事前学習では、石見銀山の課題や現状を考えて、それを改善するためにはどうすればいいか考えることができました。実際に石見銀山に行ってみて、タブレットで調べたことよりもっと詳しく知ることができました。町の景観や大森の人々を見て、石見銀山を守り、大切にされていたので私たちもそれを受け継いでいく必要があると思いました。ふるさとについて考えるいい機会になりました。
- ・石見銀山の町並みは、いつ見てもやっぱりきれいで、守ることについて、学習を通して多く考えさせられるがありました。インタビューでは大森の皆さんは地元愛であふれていると感じました。当日は悪天候でしたが、しっかり活動できたので良かったです。
- ・石見銀山には私が知らなかつた場所がたくさんあって、想像以上に魅力的なところだと思いました。大森の町並みにあるお菓子屋さん「有馬光栄堂」は200年以上も続く老舗だということを知って驚きました。町並みにも工夫があって、景観を妨げないように、木造の建物を建てていることに感心しました。石見銀山を守るために自分ができることをしていこうと思いました。
- ・石見銀山は小学校から学んできて、身近にある世界遺産だと思っていたけれど、今回現地に行って、直接住んでおられる方の想いを聞くことができて、身近にある世界遺産だけでなく、住んでいる人のあたたかみや伝統をつないでいくことの重要さ、大変さを知ることができました。また石見銀山の魅力を再発見できだし、伝統を知ることができたので、少しでも多くの人に発信していきたいです。
- ・学習を通して、ネットで調べて、いろいろ知った気になっていたつもりでも、実際に行ってお話を聞いたり、体験すると、ネットで調べたこと以上に面白いお話を聞けたり、そこに住んでいる人々が本当に大森を大切にしているんだなと伝わってきたりして、もっと大森の魅力を発信していけたらいいなと思いました。発表を通して、魅力が少しでも伝わっていればいいなと思いました。

6. 成果（○）と課題（△）

- 全体のテーマをふまえて、各班でのテーマを設定することで、「石見銀山を守る」ための方法を様々な切り口で発見することができた。
- 石見銀山の価値や、それを大切にしている方々の思いを聞くことで、大切にするということがどのような意味を持つのかを考え、大田市というふるさとを大事にする気持ちを持つことができた。
- まとめとして、現地で感じたことをプレゼンテーション資料で表現し、相手に伝えるために原稿を詳細にまとめたことで、石見銀山を守るという気持ちをさらに深めることができた。
- 地域振興に携わる方々の思いを聞くという活動をすることにより、総合的な学習の時間のねらいである「地域資源の活用」をより一層深めて考えることができた。
- 現地学習で、大森地区の小学校に訪問することでどのような学習の仕方をしているのか、何を重要視しているのかを知ることができ、事前学習では知りえなかつた思いを聞くことができた。
- △実際に大森地区を訪れたことのある生徒が少なく、現地学習では、各班コースを回る時間の計算ができてないことがあった。
- △「石見銀山を守る」ことをテーマに学習を進めていたが、深い歴史を知ることに精いっぱいで探究にまで及んでいない班がいくつかあり、事前学習の時点では多くの講師の方の話を聞くべきだった。

大田市立大田小学校

令和5年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1 実施学年・人数 6年生 66名

2 実施時期 令和5年10月～令和6年2月
(※現地学習 10月11日)

3 学習のねらい

- 世界遺産である石見銀山遺跡について学習することで、ふるさと大田への誇りと愛着をもつ。
- 学習テーマを中心に、話を聞いたり調べたり、現地学習をする中で石見銀山のすばらしさを学び、発信していきたいという思いと実践力を育てる。

4 学習内容

テーマ：在住外国人に石見銀山の魅力を伝えよう

(1) 石見銀山との出会い（オリエンテーション）

- ・講師を招き、世界遺産と石見銀山、外国との関りについてのオリエンテーションを行い、興味をもったことの中から、自分の追求したい課題を見いだす。

(講師) 石見銀山資料館 館長 仲野 義文 氏

地域おこし協力隊 金田 郁也 氏

群言堂グループ 三浦 順 氏

- ・書籍、パンフレット、ビデオ、インターネット等を活用しながら、自分の課題についての情報を収集したり、課題を焦点化したりする。

(2) 石見銀山について調べよう

- ・学習したことを、より深めるために現地見学を行う。

- ・グループに分かれて、石見銀山資料館で調べ学習をしたり、講師を招いて話を聞いたりして疑問に思ったことを解決する。

(講師) 石見銀山資料館 館長 仲野 義文氏

三瓶自然館サヒメル 学芸員 中村 唯史 氏

- ・石見銀山捲き上げ節の唄や踊りを教えていただく

(講師) 県立短期大学部長 梶谷 朱美 氏

島根県フォークダンス連盟 多久和 淑子 氏

(3) 石見銀山を発信しよう！

- ・学習したことをまとめ、学習発表会で保護者に発表する。

- ・学習したことをポスターや動画、パワーポイント等にまとめ、外国の方が目にすることに掲示したり、SNS等で発信したりする。

5 実際の学習の様子



オリエンテーション
仲野義文 氏



オリエンテーション
金田郁也 氏 三浦 類 氏



現地学習（大森町）



調べ学習 中村唯史 氏



調べ学習 仲野義文 氏



石見銀山捲き上げ節
梶谷朱美 氏 多久和淑子 氏

6 学習の成果と課題

【成果】

- ・石見銀山の歴史や価値について学ぶ活動を通して、郷土への誇りをもち、自分たちで守っていきたいという気持ちも生まれた。
- ・石見銀山捲き上げ節では、地域に受け継がれてきた踊りを教えていただく中で、自分たちで後世に伝えていきたいという思いをもつことができた。また、当日は銀山テレビにも取材に来ていただき、保護者や地域の方へ発信するよい機会となった。
- ・成果物を教育委員会を通じてポーランドに送っていただいたり、バーチャリオン株式会社のバーチャルミュージアムにも取り入れていただいたりして、学校単位ではできない発信を実現することができた。
- ・たくさんの方に協力していただき、ひと・もの・ことのつながりが深まった。

【課題】

- ・今回、在住外国人の方に石見銀山の魅力を伝えるというテーマにしたが、大まかすぎてまとめかたがあいまいになってしまった。もう少し、的をしぼって見通しをもって取り組むべきであった。
- ・現地見学に出かける際の輸送手段の調整等があり、書類手続き等が多く、担当者の授業以外の負担感が強い部分があった。学習活動を深めるための事前の交渉等を軽んじることができないので、手続等の簡略化や授業担当者以外のチームによる対応等ができると、授業担当者が子どもたちの資質・能力の育成に力を注ぎやすい。

令和5年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 6年生 36名 4年生 30名
2. 実施時期 令和5年9月～12月
3. 学習のねらい
 - 郷土の貴重な歴史、文化などについて学習することを通して、ふるさとに誇りをもち、大切にしたいこうとする心情を育てる。
 - 石見銀山について学んだり、体験したりしたことをまとめ、発表することができる。
 - 井戸平左衛門の功績について調べ、個人新聞にまとめることができる。
4. 学習の内容

主な学習内容（6年）	主な学習内容（4年）
<p>【事前学習】</p> <p>○ふるさと長久と石見銀山とのかかわりについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代初めの国絵図などを使い、長久と石見銀山とのかかわりを知る。 ・長久町内にある佐和奥連の石碑を見学し調べる。 <p>【現地学習 9月25日】</p> <p>○石見銀山について調べたり、体験したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産センターで説明を聞いたり、大久保問歩や町並みを見学しながら解説を聞いたり、自分の体で感じたりする。 <p>【学習を深めまとめる】</p> <p>○見学を通して分かったことと、もっと詳しく知りたいことを9つのテーマに分け、さらに調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと詳しく知りたいことについて、「銀山ことはじめ」を使って調べる。 <p>【発信する 11月17日】</p> <p>○まとめたことを情報発信する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9つのテーマに分けた内容をテーマごとにプレゼン用ソフトを用いてまとめ発表する。 ・学習の成果をまとめ、学習発表会において、保護者等に向けて発信する。 <p>【事後学習 12月6日】</p> <p>○これから自分ができることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石見銀山が世界遺産に登録されるときに活躍された大國先生の話を聞き、自分がこれからできることはどんなことか考える。 	<p>【事前学習】</p> <p>○郷土の発展に尽力した井戸平左衛門について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科教師の準備したスライド資料や社会科副読本「わたしたちの大田市」などを使い、井戸平左衛門下が活躍した時代の様子や行動について調べる。 ・長久や大田市内などにある平左衛門の石碑について調べる。 <p>【現地学習 11月30日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いも代官ミュージアムで展示物を見学し、井戸平左衛門が活躍した時代の様子や、行動について調べる。 ・栄泉寺や井戸神社、大森の町並みを探索する。 <p>【事後学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地学習で学んだことや感じたことをグループで発表し合い、共有する。 ・井戸平左衛門について学習したことを、個人新聞にまとめる。 ・新聞コンクールを行い、お互いの新聞の良さに気づく。

5. 実際の学習の様子

(6年生)



【佐和奥連見学】



【大久保間歩見学】



【ガイドの方の説明を聞く】



【銀探し体験】



【世界遺産センター】



【学習発表会】

(4年生)



【いも代官ミュージアム】



【栄泉寺】



【井戸神社】

6. 学習の成果と課題

(6年生)

- ・石見銀山の世界遺産登録に尽力した人々や取組について様々な資料や見学等で調べたことで、これからは、その人々の思いを私たちが受け継ぎ、私たちの大田市の誇りである石見銀山をみんなで守っていくことが大切だという気持ちをもつことができた。
- ・世界遺産センター見学や大久保間歩見学を通して、石見銀山の景観の美しさや石見銀山で当時働いていた人々の苦労をとても感じることができ、今まで以上に一人ひとりが故郷の宝を大切にし、多くの人にその魅力を発信していくことが大切だという思いを強めることができた。
- ・学習意欲を高めたり興味を持ったりするためには、事前学習のあとだけでもよかつたかもしれないが、子ども達の実感を伴う深い学びにつなげるためには、学習後に世界遺産センターにもう一度行くとよかったです。どのタイミングで現地学習を入れるとよいか課題が残った。
- ・事前学習でせっかく長久町とのつながりについて学んだのに、それからの学習に結び付けたり、情報発信したりできなかった。調べ学習のテーマの中に入れることで、自分の郷土とのつながりも考えながら伝えることができただろう。

(4年生)

- ・郷土の発展に尽力した井戸平左衛門について調べたことで、飢饉で苦しんでいた人々の思いに寄り添い、自己犠牲を払ってでも助けようとした平左衛門への感謝の気持ちをもつことができた。
- ・いも代官ミュージアムで様々な展示物を見たり、栄泉寺住職のお話を聞いたりすることで、今と昔の生活の違いや先人の活躍などについて知ることができ、郷土の歴史に対する児童の興味・関心の高まりを感じることができた。
- ・大森の町並みを探索することで、自分の住む町に誇りを持って行動することが世界遺産登録につながったことを知り、郷土を大切にする気持ちを持つことができた。

令和5年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

大田市立川合小学校

○ 実施学年・人数 第6学年 人数15人

○ 実施時期 令和5年9月～11月（現地学習：10月12日）

○ 学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通して、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。
- ・見学調査活動を通して、石見銀山遺跡の歴史的価値を調べ、自分なりの表現でまとめる。

○ 学習内容

学習テーマ 大田の宝、石見銀山に学ぼう

① 石見銀山について知る。

- ・視聴覚教材や副読本、図書、インターネットを通して石見銀山の概要を知る。
- ・自分が調べたいテーマを考える。

② 大久保間歩・釜屋間歩を見学する。

③ 世界遺産センターで館内見学と選鉱体験をする。

④ 石見銀山について分かったことを新聞にまとめる。

○ 実際の学習の様子

【事前学習】

① 石見銀山について知る。

DVDや副読本（銀山ことはじめ）、世界遺産センターから出ているパンフレット等を活用して石見銀山の概要を小項目に分けて学習し、まとめていった。石見銀山の歴史や価値について知る中で、各自の課題を設定した。

【現地学習】

② 大久保間歩・釜屋間歩を見学

銀を採掘するために、いろいろな体勢で仕事をしていたこと、銀の採掘方法、どのように銀が出来るかなどを学んだ。間歩の中に入って、実際に中の暗さを感じたり、掘った跡を見たりすることで当時の採掘に携わった人々の労苦を児童なりに感じ取ることができた。また、釜屋間歩の岩盤遺跡は当時の人々の生活が分かるものであり、遺産センターでの模型とつなぎ合わせて理解することができた。



③世界遺産センターで館内見学と選鉱体験をする。

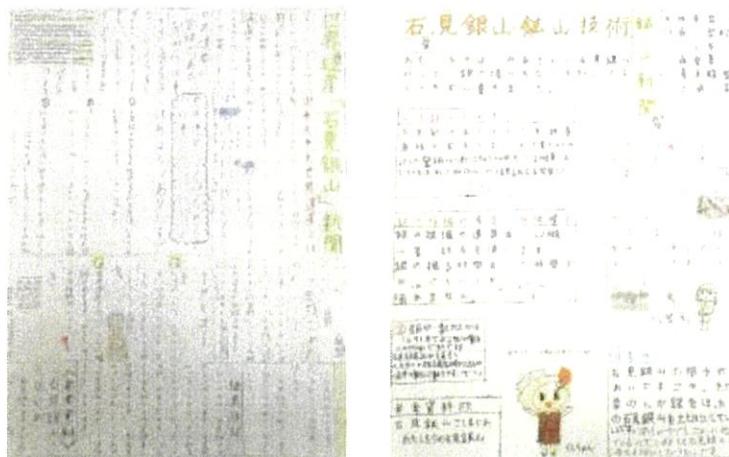
館内見学では、自分たちが今まで学習してきたことを頭に置きながら説明を聞き、見学することができた。展示物で銀山全体の広さや、歴史的価値を再度確認することができた。また、選鉱体験では、銀生産の方法を自分自身で体験し理解が深まったと同時に、銀を取り出す作業の大変さを実感することができた。



【事後学習】

④石見銀山について分かったことを新聞にまとめる。

事前学習や現地学習で学んだことを整理し、各自が設定した課題についてさらに調べ学習を進め、石見銀山について分かったことを新聞にまとめた。



○学習の成果と課題

- ・石見銀山遺跡について学習することで、今まで知らなかつた銀山の価値を知ることができ、銀山への興味・関心を高めるとともに、ふるさとへの愛着と誇りをもつことができた。
- ・資料を用いて調べるだけでなく、実際に現地に行って見聞きし、体験することで理解が深まった。
- ・石見銀山遺跡の歴史的価値を調べ、自分なりの表現でまとめる学習活動を通して、確かな学力を育てることができた。

大田市立久屋小学校

令和5年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第5・6学年15名

2. 実施時期 令和5年10月～令和6年2月

3. 学習のねらい

- ・石見銀山のどのようなところが世界的に評価され世界遺産となったのかを学ぶ。
- ・当時の石見銀山から、現在の自分たちの生活における自然との共生・共存関係について考える。
- ・久屋小学校校区にある鉱山跡等について調べ、ふるさとを大切に思う心情を育てる。

4. 学習内容

過程	主な学習活動
事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・副読本・図書館の本・パンフレット等から、石見銀山遺跡の歴史や価値について知り、現地学習での課題を設定する。 《外部講師による授業》 ・資料館仲野館長さんのお話を聞き、大田市全域も石見銀山繁栄との関わりがあることを知る。特に、久屋小学校区の日本遺産について知る。 ・石見銀山と大田市全域との関わりについて調べる。 ・現地学習での課題を設定する。
現地学習	<ul style="list-style-type: none"> 《ガイドの会の方による授業》 ・石見銀山の中核である仙ノ山（今年度は、大久保間歩のみ）に行き、ガイドの会の方のお話を聞く。さらに世界遺産センターでの見学を通して、当時の鉱山の様子や銀を掘っている様子を知る。 《外部講師による授業》 ・本校周辺の石見銀山と関わりのある遺跡について学び、見学することで久利・大屋地区も深い関わりをもって石見銀山を支えていたことを知る。
事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・石見銀山の世界的価値や当時の人々の様子、地域の史跡について見学したことをまとめ、パンフレットにして紹介する。 ・資料および見学や体験学習で学んだこと、さらに自分自身で調べてみたことなどをまとめ文章に表す。

5. 実際の学習の様子



【いも代官ミュージアム館長仲野さんのお話】



【仙ノ山（大久保間歩）見学】



【久屋小学校区内史跡見学】

6. 学習の成果と課題

- 石見銀山の歴史、価値についての理解を体験的に深めることができた。
- 世界的価値のある石見銀山遺跡への誇りと愛着の醸成を図ることができた。
- 石見銀山(世界遺産)と自分たちの町の日本遺産(松代鉱山等)との比較をすることで、ふるさとを見直し愛する心を育てることができた。
- 調査、見学、まとめを通して、情報収集、情報活用等、課題解決能力の向上を図ることができた。
- 学習のまとめを通して、情報発信能力の向上を図ることができた。

2 班

第五	中	學	校
靜	猛	小	校
鳥	小	學	校
久	小	學	校
朝	波	小	校

令和5年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1 実施学年・人数

1年生75名(当日参加74名、欠席1名)

2 実施時期

令和5年6月～令和5年12月

・現地学習 9月8日(金)

3 学習のねらい

- ・生徒が石見銀山の歴史や価値などについて知識・理解を深め、ふるさとに誇りをもち、ふるさとを愛する心を育てる。
- ・生徒が地域の人々と交流を深めながら、これから石見銀山のあり方について考えようとする態度を育てる。
- ・世界遺産である石見銀山の魅力を再発見し、伝えようとする態度を育てる。

4 学習内容

(1)事前学習

- ・ガイダンスで学習のねらいや活動計画を知り、学習の見通しをもつ。
- ・小学校での学びをもとに、石見銀山の魅力を「歴史」「生活・文化」「企業・公共施設」「世界の関わり」「技術」の視点から考察し、探究課題を設定して、解決する方法を計画する。
- ・現地学習コースの訪問予定地を各自で調べ、当日の予定を立てる。

(2)現地学習

- ・グループごとに立案したプランに沿って現地研修を行う。
- ・現地では、石見銀山ガイドの会や事業所の方々などの石見銀山に関わりの深い方にインタビューをし、石見銀山への理解を深める。
- ・班別自主研修を行い、班内で協力することや時間を守ることなどの大切さを学ぶ。
- ・世界遺産センターや石見銀山ガイドの会、地元企業から史跡や企業の取組について詳しく説明を聞き、石見銀山への理解を深める。

(3)事後学習

- ・現地研修で感じたことや新たに知ったことをふまえて、探究課題への答えをまとめる。
- ・各班でプレゼンテーションの資料を作成し、それぞれの視点から石見銀山の魅力を発表する。
- ・プレゼンテーションの資料については、文化祭で展示し、地域の方々に見てもらう。

5 実際の学習の様子

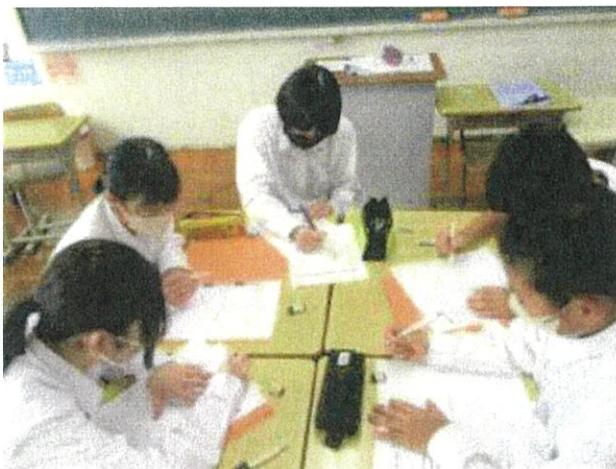
(1)生徒の感想(探究課題に対する答え)

- ・戦国大名は石見銀山の銀を貿易や政治に利用していた。石見銀山・大森は戦国大名にとってとても重要な地域だった。(歴史の視点から)
- ・石見銀山、大森町には様々な種類の企業や公共施設がある。それらの企業や施設に共通することはふるさとである大森町を大切に守っていきたいという気持ちがあり、環境保全や古民家再生などの活動を行っている。(企業・公共施設の視点から)
- ・石見銀山では灰吹法で鉱石を灰吹銀に加工し、当時の最先端の技術で銀を採掘している。(技術の視点から)
- ・大森の町は、昔の暮らしを表現するために、伝統的な建造物を改修・改築したり、資料を集めた公共施設(世界遺産センター)をつくったりしている。そして、住民の努力によって環境や景観が保たれている。(生活・文化の視点から)
- ・昔は年間2000トンの銀を輸出し、世界の経済を大きく動かすほど重要な地域だった。現在では銀が採掘

され、輸出されるまでの様子が分かる世界でも貴重な遺跡である。(世界とのつながりの視点から)

(2) 学習の様子とプレゼンテーション発表

事前学習（学習方法を検討している様子）



プレゼンテーション発表の様子

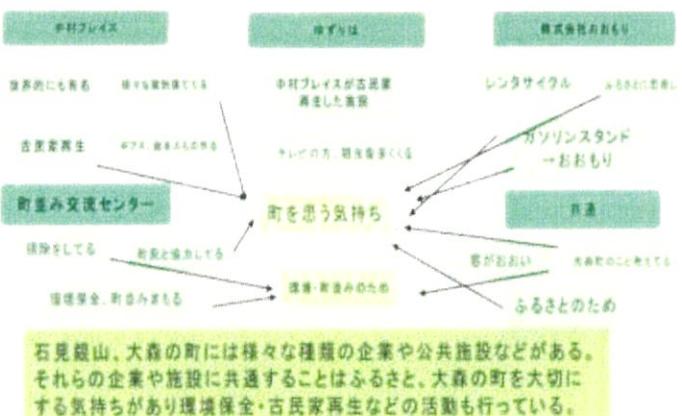


現地学習（現地でのインタビューの様子）



作成したプレゼンテーションの資料

石見銀山にはどのようなお店や企業があるのだろうか。



6 成果と課題

- 各生徒が自分の興味関心のあるものについて調べることができ、意欲的に学習に取り組むことができた。
- 資料の情報だけで知識を深めるのではなく、現地に行って実際に見聞きすることによって、石見銀山の世界遺産としての価値や魅力を理解することができた。
- ガイドの会や企業の方へのインタビューを通して、石見銀山の理解を深めることができた。そして、地域の人々との交流の機会を通して、これからの中見銀山のあり方について考え、ふるさとを愛する気持ちをもつことができた。
- 学習したことをまとめ、地域の人々に発信することで、地域の一員としての自覚をもつことができた。

令和5年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1 実施学年・人数 第6学年 15名

2 実施時期 令和5年12月～令和6年2月

3 学習のねらい

- ・遺跡や資料館の見学をしたり、石見銀山遺跡の資料を用いる学習をしたりして石見銀山遺跡の歴史やその価値を理解し、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。
- ・調べたり体験を通して学んだりしたことをまとめ、伝え合い、理解を深める。

4 学習内容

過程	主な学習活動
事前	<ul style="list-style-type: none">○石見銀山について知る。(12月、1月)・副読本（銀山ことはじめ）・パンフレット・DVD・図書館の本などから、石見銀山の歴史や価値について知る。また、地域講師から五十猛と石見銀山のつながりについて学ぶ。・事前学習で分かったことをパワーポイントでまとめる。
現地学習	<ul style="list-style-type: none">○現地を見て感じる。(1月18日)・龍源寺間歩の見学、その周辺地域めぐりなどを通して、石見銀山遺跡を見学する。・石見銀山世界遺産センターでの展示資料や遺跡見学でのガイドの方の説明から、石見銀山の歴史や価値について理解を深める。
事後	<ul style="list-style-type: none">○分かったことをまとめ、発表する。(1月、2月)・実際に現地を調査して感じたことや分かったことをパワーポイント資料に追加して、まとめ、発表する。

5 実際の学習の様子

【龍源寺間歩や銀山坑道コースの見学】

あいにくの雨の中での現地調査となつたが、実際にガイドの方と間歩の中を歩くことで、間歩の広さや暗さ、間歩にコウモリが生息することなど調べ学習では分からなかつたことを、五感を通して学ぶことができた。

また、当時の石見銀山の様子を想像し、当時の人々の暮らししぶりや苦労なども改めて考えるきっかけとなつた。

【世界遺産センターの見学・丁銀づくり体験】

世界遺産センターでは、展示を見て回りながら、改めて職員の方から石見銀山の価値や特徴を教わり、世界遺産としての価値を再認識できた。また、石見銀山と世界とのつながりについても理解できた。

丁銀づくり体験では、実際につくられていた丁銀についての説明を聞いた後で、レプリカではあるが丁銀をつくってみることで、記憶にも形にも残すことができ、いい体験となつた。



○児童の感想

- 今まで石見銀山のことを知らなかったですが、パンフレットや本を読んで少しづつ分かってきました。また、実際石見銀山を自分で歩くことで分かったこともたくさんありました。一番驚いたのは、龍源寺間歩の狭さです。あんな狭いところでよく作業をしていましたなと思いました。間歩の中で、銀の鉱石を見たとき、銀のように輝いて見えました。町を歩いているときに、そこらじゅうにたくさんの間歩の跡がありました。世界遺産センターでは、丁銀づくり体験をすることができ楽しかったです。
- 石見銀山には、今でもたくさんの間歩があった。石見銀山の間歩は、人の手で掘られていると聞いて、すごいと思った。昔は何万人も住んでいたと聞いて、それだけたくさんの銀がとれていたのだなと思いました。また、今でも石見銀山に人が住み続けていて、昔の街並みが保たれていることもいいなあとと思いました。
- 石見銀山柵の内の面積は約320haで、甲子園球場は4haだから、甲子園球場が約80個分です。石見銀山は、間歩が1200以上も発見されたと聞いてびっくりしました。将来石見銀山に住もうかなと思いました。石見銀山をこれからも守っていきたいです。

6 学習の成果と課題

- 学習を通して、石見銀山への興味・関心を高めるとともに、ふるさとへの愛着と誇りを持つことにつながった。事前学習で、地域講師から五十猛町と石見銀山の関係について教えていただいたことで、石見銀山が少し身近に感じることできたようであった。
- 石見銀山世界遺産センターや現地での見学により、石見銀山の歴史や価値についての関心をより高めることができた。また、副読本やDVDで学習したことについて実感することができ、理解が深まった。
- 準備が遅くなってしまい、訪問が1月になり、大久保間歩に入ることができなかつた。来年度は、準備を計画的に進めたい。

大田市立静間小学校

令和5年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第6学年（10名）
第3学年（14名）・・・熊谷家

2. 実施時期 令和5年9月～12月

3. 学習のねらい

- ・郷土の貴重な文化・歴史遺産である石見銀山遺跡について学習し、遺跡についての知識・理解を深めるとともに、地域の一員としてこの遺跡に誇りを持ち、大切にしていこうとする心情を育てる。

4. 学習の内容（第6学年）

①事前学習

『銀の作り方を知ろう』

- ・パンフレットや資料、DVDから石見銀山の歴史や石見銀山遺跡の価値について知る。
- ・仲野義文さん（石見銀山資料館館長）に話を伺い、課題を見つける。

②現地学習

『銀の作り方を知ろう』

- ・世界遺産センターの見学や体験活動、大久保間歩や岩盤遺跡を見学したり、ガイドの方のお話を聞いたりして、銀生産の様子と銀山で暮らす人々の生活について調べる。

『鉄の生産について知ろう』

- ・鉄生産に関係のあるたたら場などを見学し説明を聞き、鉄の生産や輸送などについて共通していることや違うことを調べる。

③事後学習

『学習したことをまとめて、表現しよう。』

- ・調べたことを共有し、銀と鉄の作り方の違いを考察する。
- ・学習を通して学んだことを新聞やパワーポイントにまとめ、発表する。

学習の内容（第3学年）

- ・児童は、市の特色を学習した際に石見銀山が大田市の誇る世界遺産であることを学んだ。見学では、石見銀山が発展していく中で熊谷家が果たした役割について館内を見学しながら説明していただいた。そして、大森代官の命を受け、銀行や酒造業など様々な役割を行い、石見銀山の発展に貢献したことをまとめた。

5. 実際の学習の様子



熊谷家体験・見学



仲野館長さんのお話



岩盤遺跡見学



鉄の生産について説明



銀と鉄についてまとめ

6 学習の成果と課題

【成果】

- ・石見銀山の歴史、価値についての理解を深めることができた。
- ・世界的に価値のある石見銀山遺跡を知ることを通して、郷土への誇りと愛着をもつことができた。
- ・身近なところにも鉱山があり、生産と運輸などを銀山と同じように行っていたことを知り、地域を見直すきっかけとなった。

【課題】

- ・静岡地域の製鉄の資料集めが自分たちだけでは難しかった。ガイドをしていただいたことにより、深く学ぶことができた。石見銀山と関連付けて考えることから、さらに課題を見つけ、追求していくことまでに至らなかった。

令和5年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年、人数

第5学年 4名 第6学年 5名

2. 実施時期

令和5年9月～令和5年11月

3. 学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通して、ふるさと大田への愛着と誇りをもつ。
- ・自分の課題について、調べたり、体験したりしたことをまとめ、発表する。

4. 学習内容

○事前学習

- ・校舎内に石見銀山コーナーを設け、地図や写真、関係する読み物等を展示し意識を高める。
- ・DVDやパンフレット、その他の資料から、石見銀山遺跡について調べる。
- ・石見銀山資料館仲野館長さんのお話を聞いて、石見銀山の歴史について理解を深め、現地学習での課題を見つける。

○現地学習

- ・大森の町並みや、熊谷家住宅、石見銀山資料館を見学したり、説明を聞いたりして理解を深める。
- ・温泉津の町並みや沖泊を見学したり、説明を聞いたりして理解を深める。

○事後学習

- ・調べたり見学したりして分かったことをまとめる。
- ・まとめたことを発表する。(学習発表会)

5. 実際の学習の様子

事後学習 仲野義文さんのお話 【9月8日】



- ・石見銀山がどのようにして見つかったのか、どのように銀が掘られていたかなど、クイズを交えて教えてもらい、児童の興味・関心が高まった。
- ・銀がどのように使われていたのか想像しにくい児童がいたが、仲野さんのお話を通じて、銀の価値に気づくことができた。

大森の町並み、熊谷家、石見銀山資料館見学 【10月5日】



温泉津の町並み、沖泊見学 【10月16日】



学習発表会での銀山学習発表 【11月18日】



・大森の町並みと温泉津の町並みを比較しながら見学を行うことで、その町の特徴や銀が採っていた時代と現在の変化などを考えながら学習することができた。

・学習発表会では、島根県、大田市、鳥井町の良いところを発表することで、石見銀山を含めた、ふるさとへの良さを実感することができた。

児童の感想より

- ・ぼくは、仲野館長さんのお話を聞いて、銀を使って外国といろいろな物を交換していたことにびっくりしました。他にも、銀を掘る作業のことや、マスクのことなど、初めて知ることがたくさんありました。
- ・温泉津の町並み見学をして、銀が採れなくなったことで人口が減ったと聞いてびっくりしました。銀を求めて来た人が泊まっていた町だということを初めて知りました。だから温泉や宿がたくさんあると分かりました。

6. 学習の成果と課題

- ・見学や講師の方のお話を通して、石見銀山の歴史やその価値について理解を深め、ふるさとへの愛着を高めることができた。
- ・総合的な学習の時間における探究的な学習（「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」）を展開してきたが、児童がより主体的に活動できるような学習計画をしていきたい。

大田市立久手小学校
令和5年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 学年・人数 第6学年 31名

2. 実施時期 9月から12月

3. 学習のねらい

- 石見銀山遺跡について、学習課題を設定して学習を進めることで、興味・関心を高める。
- 副読本等で調べたり、課題意識をもって現地学習を行ったりすることによって、遺跡の価値に気付くとともに、知識と理解を確かなものにしていく。
- 学習の成果をまとめ、発表することを通して、この地に生まれ育った一人として、この遺産に誇りをもち、大切にしていこうとする心情を育てる。

4. 学習の内容と様子

(1)副読本「石見銀山ことはじめ」やパンフレット等を通した学習

- ①世界遺産について
- ②銀山発見について
- ③銀山をめぐる争いについて
- ④間歩・銀の掘り方について
- ⑤銀（丁銀）ができるまでについて
- ⑥世界とのつながりについて

【児童のふり返り】

- ・銀の採掘や製錬を全て手作業でやっているところが、すごいと思いました。
- ・銀が発見されていなかったら、今の日本にある文化や食べ物などが、外国と貿易ができずになかったかもしれないから、銀が発見されてよかったです。

(2)現地での学習(10月10日)

①大久保間歩、釜屋間歩の見学



②世界遺産センターでの展示見学



【児童のふり返り】

・間歩の長さが予想よりも長かったです。5時間で30cmくらいしか掘れないし、灯りも今のようにライトがなく、らうだったから、すごく暗く、とても大変だと思いました。私には絶対にできないと思うけど、昔の人たちは、それを大変だとしてもやっていたので、本当にすごいと思いました。

③ゆり盆体験学習



【児童のふり返り】

・銀探し体験でたくさんとれてよかったです。とても難しかったし、腕が疲れました。昔の人たちがずっとやっていたと思うと、とても大変だったんだなと感じました。

(3)旧波根湖干拓による新田開発について学習する。

- ①川崎平右衛門の業績について
- ②新田開発について

(4)調べたことをまとめて発信する。

石見銀山の良さを国語科との学習と関連付けてグループごとにプレゼンテーションにまとめます。そして、5年生に発信して聞いてもらう。

【児童のふり返り】

・川崎さんは、湖を農地にして、食料を確保するという方法を思いついていて、すごいなと思いました。
・ぼくの家も昔は田んぼだったと思うと、すごい時間がかかったんだなと思いました。



5. 成果と課題

- 学習を通して児童の石見銀山遺跡への興味・関心を高めるとともに、ふるさとへの愛着と誇りをもつことにつながった。
- 間歩などの見学やゆり盆体験活動を通して、当時の生活の大変さを感じたり、人々の思いを想像したりすることにつながった。また、副読本等で学習したことについて実感することができ、理解を深めることができた。
- 石見銀山遺跡の歴史的価値などをまとめた学習活動を通して、石見銀山の素晴らしさを感じるとともに、「石見銀山を大切にしたい。」「よさを知ってもらいたい。」など、今後の保護・保存・活用への意欲を高めることができた児童が多くいた。

大田市立朝波小学校

令和5年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

○実施学年・人数

第6学年 16名

○実施時期

令和5年9月～令和5年12月

○学習のねらい

- ・石見銀山について学習することを通じ、ふるさとへの愛着と誇りをもつ。
- ・自分で設定した課題について、体験活動や調べ学習を通して学んだことをまとめ、伝え合う。

○学習内容

過程	主な学習活動
事前学習	<p>○学習課題を見つけよう</p> <ul style="list-style-type: none">・多田先生から朝山小学校区の波根・朝山・富山と石見銀山のつながりを聞く。・副読本やインターネット、パンフレット、DVD等から石見銀山遺跡の歴史や価値について知り、自分が調べたいテーマを考える。
現地学習	<p>○波根の長福寺を見学しよう</p> <ul style="list-style-type: none">・長福寺で毛利元就ゆかりの品を見せてもらう。 <p>○島津屋（朝山町）の関所を見学しよう</p> <ul style="list-style-type: none">・石見銀山との関連を考える。 <p>○要害山（富山町）の富永山城守の居城跡を見学しよう</p> <ul style="list-style-type: none">・石見銀山との関連を考える。 <p>○大森の町並みを歩こう</p> <ul style="list-style-type: none">・観世音寺から見た景色から大森の町並みの特徴を考える。 <p>○世界遺産センターで調べよう</p> <ul style="list-style-type: none">・ガイドの方の話を聞く。・センター内を見学し調べる。・調べても分からなかつたことを質問する。・ゆり盆や丁銀作りを体験する。 <p>○大久保間歩・釜屋間歩を見学しよう</p> <ul style="list-style-type: none">・ガイドの方に説明していただきながら間歩を見学する。・ガイドの方に質問する。
事後学習	<p>○石見銀山について分かったことをまとめよう</p> <ul style="list-style-type: none">・調べたことをまとめる。・プレゼン用シートや原稿にまとめ、学習発表会で学んだことを発信する。

○実際の学習の様子

◆多田先生との学習



◆世界遺産センター見学



◆大久保間歩見学



◆波根長福寺見学



◆ゆり盆体験



◆学習発表会



○学習の成果と課題

- ・石見銀山のことをほとんど知らない児童が、その歴史的価値を学ぶよい機会となり、児童にとって石見銀山が身近なものとなった。
- ・校区内にある石見銀山と関連した遺品や遺跡に触れ、その価値を知ることで、我が町、波根・朝山・富山に対する誇りや郷土愛が育まれた。
- ・石見銀山に関する個別の追求テーマを設定し、発表に場を設けたことで、主体的に学ぼうとする意欲や課題を解決するために追求する力の高まりがみられた。

3 班

第 三 中 学 校
大 森 小 学 校
高 山 小 学 校

大田市立第三中学校

令和5年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第1学年(3名)

2. 実施時期 令和5年7月中旬～10月下旬

3. 学習のねらい

- ・小学校で学習してきた「石見銀山」について、さらに理解を深めるために、尾道へ銀を運んだ「やなしお道」(*小学校では未学習)を中心に歴史や人物、事物に対する知識・理解を深め、郷土の歴史や文化遺産への関心を高める。
- ・自分なりの目標をもって学習・活動に取り組み、学習したことの要約し、絵や図を使うなどして分かりやすくまとめる。

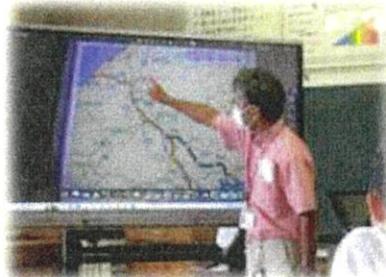
4. 学習の内容

オリエンテーション	7月12日	オリエンテーション 既習事項の確認	石見銀山学習計画の概要を説明すると共に 小学校での学習をふりかえる。
事前学習	9月6日	やなしお道について	石見銀山ガイドの会濱谷さんから説明を聞く。
フィールド ワーク	9月27日	やなしお道探索	石見銀山ガイドの会濱谷さんの案内で美郷町 までの街道を歩く。
事後学習	9月下旬～	文化祭展示発表準備	自分の目標や学習したことについてまとめ、文 化祭で展示発表する。

5. 実際の学習の様子

9月6日(水)

事前学習



9月27日(水)

やなしお道探索



11月3日 文化祭展示のまとめの様子・展示発表



6. 生徒の感想

やなしお街道の講義では、講師の方が牛の爪が割れて、冷やさないといけないと言われて、本当かどうか不思議に思っていたけど、実際街道を歩いてみたら、その違和感がなくなるほど傾斜がきつかったり、石がゴロゴロしていたりして、昔の人たちが牛は重たい銀を運びながら通っていたと思うと、軽い荷物しか持っていない自分たちより、とても大変な思いをしながら街道を歩いていたんだなと思いました。でも、途中で見えた三瓶山や落ち葉でふかふかしていた街道は、とてもきれいだったし、歩きやすいと思いました。

まとめ学習では街道の良いところがありすぎて、どこを紹介しようか迷ったし、どのようにまとめれば、分かりやすいかななど考えることで、良い展示物が出来上がったと思います。

今回、初めてやなしお街道を歩きました。実際に歩いてみて、昔の人は、藁草履で今よりも悪い道を歩いていたんだと思うと大変なことだと思いました。街道の一部である十王道では、なぜ木が生えていないのかと不思議におもいましたが、ガイドの方に、道に塩がまいてあるからということを聞いておどろきました。やなしお街道を実際に歩いてみて、藁草履で牛を引いて銀を運んでいたことを考えると、本当に大変なことだったと感じました。

ガイドさんの話を聞いて、やなしお街道は歩きやすい街道だと聞いていたが、最初はなだらかな道でしたが途中の坂がきつかったし、特にやなしお坂の下り道は、くねくねしていて石がゴロゴロあってとても歩きにくかった。でも、途中にキノコがたくさんだったので最後まで、楽しみながら歩くことができた。

7. 成果と課題

- 1 「石見銀山」及び地域の「街道」や街道沿いの事物について学ぶことによって、地域の文化遺産や自然環境に愛着をもち、ふるさとへの誇りを持った生徒を育むことができた。
- 2 「街道」や物流について学ぶことによって国内外と「石見銀山」とのつながりを知り、「石見銀山」への価値を再認識し、広い視野を持った生徒を育てるとともに、その価値を次代へ継承していくこうとする意欲を高めることができた。
- 3 学習のまとめを決めて、文化祭への発表に向けて学習活動を行った。その活動によって、課題解決力や表現力を高めることができた。
- 4 地域にある貴重な世界遺産の保全に対する意欲を高めることができた。
- 5 石見銀山ガイドの会の方との学習をとおして、地域のために活動することの楽しさや素晴らしさを学ぶことができた。
- 6 「やなしお道」は当時の銀の運搬について考える貴重な道であるが、前日雨だったこともあり、足元が悪く、蜂やヘビなど出会う危険性も高い。実施については、事前の下見が必要。

令和5年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 3～6年生の学習

2. 実施時期 6月～11月

3. 学習のねらい

- 石見銀山の魅力を再認識する活動を取り入れることで、郷土への誇りと愛着を育む。
- 学習したことを地域や一般に発信するという目標を立てることで、見通しをもって活動に臨み、意欲的・主体的に課題を解決していく態度を育てる。
- 発見・収集した情報を処理し、わかりやすく伝える工夫を考える活動を通して、思考力・判断力・表現力を養う。

4. 学習の内容

大森小学校では、毎年石見銀山についての学習を全校の児童が行っており、資料を調べるだけでなく実際に様々な場所に出かけて行き、見学したり専門の方にお話を聞いたり、体験したりする活動を大切に考えている。以下、具体的な実践について紹介する。

(1) 総合的な学習の時間「世間遺産学習」(3～6年：14名)

- ・今年度は「世間遺産を調べよう」という学習に取り組んだ。地域の方に、世界遺産とはまた違う、地域の宝となるような「人・モノ・風景」についてアンケート調査をし、そこから一人ひとりが課題をもつたことについて地域の方にインタビューをするなどして調べ学習を行った。



- ・学習発表会では地域の方を招いて「世間遺産認定会」を行い、自分たちのまとめたプレゼンテーションを受けて地域の方に認定していただく活動を行った。認定する場面ではICTを活用してアンケートフォームや二次元コードの作成なども児童が手掛け、情報活用能力の育成にもつながった。

(2) 世界遺産センター見学(3～6年：14名)

- ・世界遺産センターのスタッフの方に、石見銀山の歴史について展示物を使って説明をしていただいた。
- ・実際に「ゆり盆」の体験をしたり「丁銀」作りを体験したりすることができた。

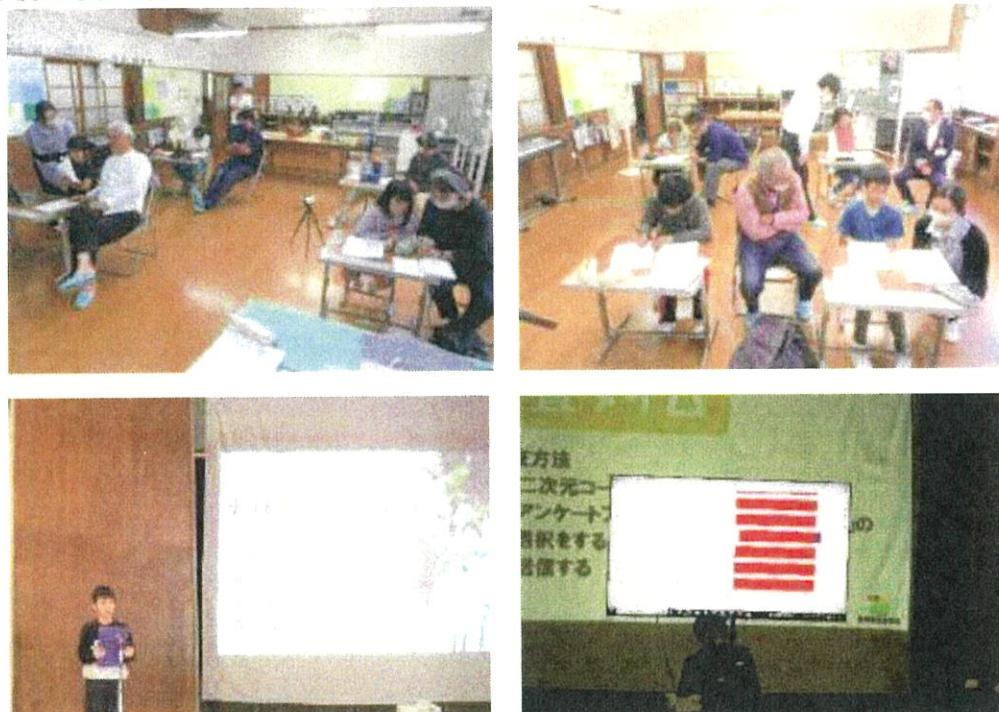


(3) 龍源寺間歩見学（3～6年：14名）

- ・龍源寺間歩を実際に見学し、説明を聞き、銀を掘り出す人々の苦労や工夫をより深く考えることができた。
- ・石見銀山の歴史やその価値についてさらに詳しく調べるきっかけづくりとなった。
- ・龍源寺間歩に到着するまでにある番所跡や間歩などについてもガイドの方から説明を聞くことができ、当時の大森周辺の様子を想像することができた。

*銀山学習と銀山学習につながる活動時間：40時間（現地学習を含む）

5. 実際の学習の様子



6. 学習の成果と課題

- 石見銀山学習の活動を通して、石見銀山や大森の歴史、そこにある史跡の価値などについて再認識することができた。
- 石見銀山ガイドの会の方々の話を聞き、龍源寺間歩について学んだり、銀山の生成過程に関わった山に登ったりすることで、自分たちの目で確かめ肌で感じ取りながら学習を進めいくことができた。また、世界遺産センターでは、更に専門的に詳しく話を聞くことができ、銀で栄えた当時の様子を想像することができた。
- 世間遺産学習を通して、世界遺産の町である大森の新しい価値について気付くことができた。地域の方と学習を進めていく上で、地域への愛着が増すだけでなく、自己肯定感を育てる意味においても価値があった。
- △世界遺産の町にある小学校として、子どもの興味・関心をより引き出すような銀山学習のあり方の見直しを行いたい。

令和5年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1 実施学年・人数

5年生6名 6年生7名 (計13名)

2 実施時期

令和5年9月～12月 (※現地学習 11月14日)

3 学習のねらい

- 郷土の貴重な文化、歴史遺産について学習し、その歴史や価値について知ることで、ふるさとに愛情と誇りをもち、大切にしていこうとする心情を育てる。
- 児童が興味のあるテーマを探して選び、調べたり、現地学習をしたりすることで課題を追求していく力を育てる。
- 学習したことをまとめ、学級内で共有することを通して、表現力を育てるとともに、幅広い知識を身に付ける。

4 学習内容

(1) 事前学習

- ・「なぜ石見銀山が世界遺産になったのか」という視点から、思考ツールを用いて児童が石見銀山について知っていることや、すでに学んだことなどを整理する。
- ・DVD資料を視聴し、石見銀山の概要について知る。
- ・自分が調べたい事柄を絞り、石見銀山ことはじめやパンフレットなどの資料をもとに調査を進める。



(2) 現地学習

- ・石見銀山世界遺産センターを訪れ、説明を聞いたり、資料を見たりするなどして、自分の課題解決の手がかりとなる情報を集める。
- ・石見銀山の開発に携わった人々の、当時の生活の様子を知り、工夫や苦労を感じることができるようにするために、石見銀山世界遺産センターにおいてゆり盆体験を行う。
- ・大久保間歩・釜屋間歩及び周辺の遺跡を見学したり、ガイドの会の方のお話を聞いたりすることを通して学習を深める。



(3) 事後学習

- ・振り返り作文を書く。
- ・情報の整理をする。
- ・新聞にまとめ、情報の共有を行う。



5 学習の様子

(1) 児童の感想

- ・石見銀山は昔、徳川家康などの有名な武将と関わりがあることを知って驚きました。さらに、石見銀山をめぐって戦国時代では多くの争いが起きていたことも分かりました。この素晴らしい歴史をたくさんの方に知ってほしいと思います。
- ・私は、石見銀山がずっと世界遺産であってほしいと思います。世界遺産であり続けるには、景観を守り続けたり、手続きなどが必要だったりするので大切にしなければなりません。地元に世界遺産があることは素晴らしいことなので、私たちが支え続けたいと思います。
- ・銀山学習を通して、間歩だけでなく歴史や昔の人の生活について知ることができました。
- ・石見銀山は世界遺産なので、土地や建物に手を加えることはできません。ですが、たくさんの人に来てほしいので、スロープや手すりなどができるとよいのではないかと思いました。
- ・間歩の中に空気を送る人がいたことや、子どもでも採掘を手伝っていたことなど、当時の人々の様子がよく分かりました。

(2) 新聞作成



6 成果と課題

学習のテーマを「すごいぞ！石見銀山」とし、なぜ石見銀山は世界遺産になったのか、という視点で石見銀山の魅力やどのような点が世界に誇れるものなのかということを追求した。石見銀山の歴史や携わった人々の功績、石見銀山の価値についての理解を深め、その素晴らしさを知ることで、郷土が誇る世界遺産に触れ、ふるさとを愛する心を育てることができた。また、調査活動を通して、課題を追求したり解決したりする力を育てることができた。

本校の高学年は複式学級のため、5・6年の2年間を通して、児童にどんな力をつけたいか、どんな体験から学んでほしいかを考え、カリキュラムマネジメントしていく必要がある。また、中学校区小中がさらに連携し、小学校での学習をどのように中学校に発展させていくか見通しを立てていく必要がある。

4 班

北 三 瓶 中 学 校
志 学 中 学 校
志 学 小 学 校
北 三 瓶 小 学 校

大田市立北三瓶中学校

令和5年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 1年生 1名

2. 実施時期 令和5年9月～令和5年10月（現地学習：9月29日）

3. 学習のねらい

【ふるさとを知ろう】

- ・郷土の貴重な文化、歴史遺産について学習し理解を図るとともに、その背景となつた歴史や地域の文化、技術について学習する。
- ・ふるさとで生活し、はたらく人々の思いを知り、ふるさとを大切にしていこうという心情を育てる。
- ・世界遺産センターや大森の歴史的建造物を見学することで、歴史に対する興味・関心を高める。

4. 実際の学習のようす

（1）事前学習

- ① 図書やインターネットなどから石見銀山の歴史や現状を知る。
- ② 疑問点などを挙げて課題を見つけ、事前に質問を準備する。
- ③ 現地学習の計画を確認する。

現地学習

場 所	内容など
① 群言堂	従業員の方の話を聞く
② 石見銀山世界遺産センター	センターの方の説明を聞く・見学
③ 大森の街並みや龍源寺間歩の見学	ガイドの方の話を聞く・見学

事後学習

- ① 現地学習で学んだことの振り返りとまとめ。文化祭展示に向けて、PWPを作成。
- ② 現地学習でお世話になった方々へのお礼状書き。

(2) 生徒の感想

- ・群言堂では、店名の由来について教えてもらった。中国人留学生から教えてもらつた言葉を採用したこと。その言葉の意味の通り、周りの意見を聞きながらヒノキのたわしを造り出したり、人々の需要を見ながら生活に馴染む商品を考えたりされている企業だからこそ、全国各地に事業展開されているのだと感じた。
- ・石見銀山世界遺産センターでは、職員さんのお話を聞きながらセンター内を見学した。平日にも関わらず、数台程観光バスがとまっていて、石見銀山が世界遺産であることを改めて感じた。コロナが5類に下がり、外国人観光客が増えたり、GWやお盆には1日1,000人を超える観光客が訪れたと聞いて驚いた。
- ・大森の町並み見学では、水切り瓦や家の構造について教えてもらった。また、世界遺産として、登録されたときのままを残さないといけないので、生活するときの不便さや上手くやりくりする方法も知ることができた。それでも、大森で生活している人や働く人は、大森町のことをとても大切にし、誇りをもちながら生活しているのだと感じた。
- ・銀山学習全体を通して、小学校でも銀山学習をしていることもあって、知っていることもある一方で、初めて知ったこともたくさんあった。石見銀山ガイドの方とマンツーマンで教えて頂いて、とても貴重な経験をさせてもらいました。今回学んだことを活かして、また銀山に行ってみたい。

6. 学習の成果と課題

石見銀山の歴史、歴史遺産の価値についての理解を深め、



歴史に対する興味関心を高められることができた。また、大森の町で生活している人々の想いにふれることで、ふるさとへの誇りをもち、大切にしていこうとする心情が育ったと考える。活動全体を通してやり遂げる力を培うことができた。

総合的な学習の時間の探究活動につなげるためには、世界遺産としての石見銀山を意識させることが重要であると感じた。



令和5年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 学年・人数 1年生 6名

2. 実施時期 9月

3. 学習のねらい

- ・現地で学んだことをとおして、石見銀山地域や志学地域への理解を深める。
- ・石見銀山地域と周辺地域の保護・整備・継承を行う人々の思いを理解してその意義に気づき、大田市や志学地域への愛着と誇りをもつ。
- ・郷土の偉人とその功績を学ぶことで、ふるさと志学を大切にしていこうとする態度を育てる。

4. 学習の内容

①事前指導

- ・銀山地域の概要や井戸平左衛門、天保の飢饉について担当教員が説明したり、生徒自ら調べたりすることで、共通理解を図った。

②石見銀山資料館訪問

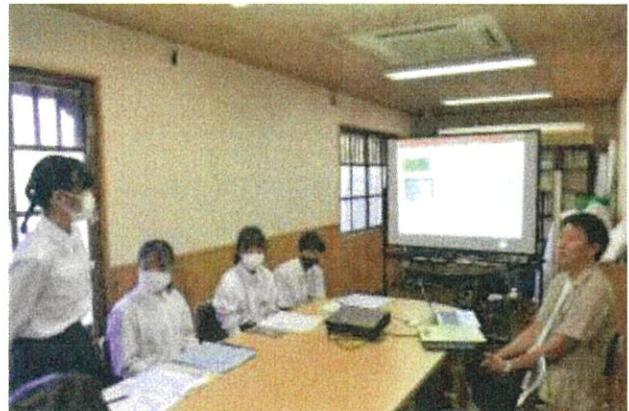
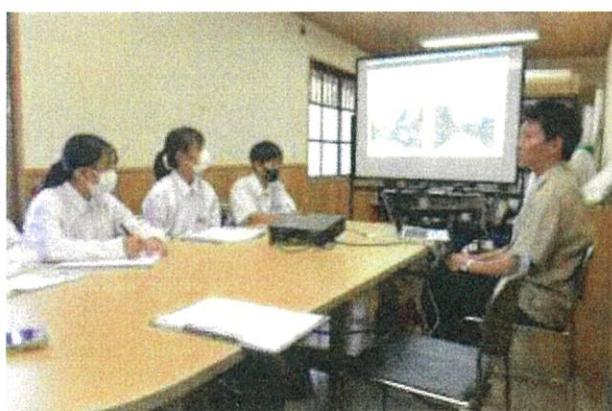
金田郁也さんに「『飢饉』と井戸平左衛門」のテーマで講話ををしていただいた。当時の飢饉の様子や、井戸平左衛門の功績、そして大森町の取組などのお話を伺った。そのご、資料館を見学し、当時の文化や暮らしについても理解を深めた。

③事後学習

学んだことについてまとめ、文化祭で展示了。

5. 実際の学習の様子

①金田郁也さんによる講話



②資料館見学



～生徒の感想～

- ・井戸平左衛門は、他の人の命を助けようと人のために動いたことを知って、すごい人だと思いました。
- ・井戸平左衛門は、自分の財産を使っていてびっくりしました。志学の上山に石碑があることを知って、びっくりしました。
- ・西日本でたくさん的人が餓死する中、自分から行動に移せる人はすごいと思いました。
- ・志学が井戸平左衛門にお世話になっていたことを知って、もっとくわしく知りたいと思いました。
- ・志学を大森のようにとっても魅力が多い町にしたいと思いました。そうすれば、人もより集まってくれると思ったからです。歴史的な建物を大切にしたり、みんながあいさつをしたりするようにして、魅力的な町にしてみたいなと思いました。
- ・金田さんのお話を聞いて、あいさつをしたら人が元気になることを知った。続けてあいさつをしようと思った。

6. 成果と課題

金田さんのお話や資料館の見学をとおして、銀山地域のこれまでの歩みや文化、井戸平左衛門の功績を学んだ。それによって、石見銀山地域や今も井戸平左衛門の石碑が残る志学地区への関心や理解を深めることができた。また、石見銀山地域と周辺地域の保護・整備・継承を行う人々の思いにふれるなかで、その意義を考え、大田市や志学地域への愛着を深めることができた。

今後はこの学びを生かし、より石見銀山地域に対する理解を深めるとともに、大森に住む地域の方の取組をふまえ、志学地域活性化について考えを深められるようにしていきたい。

大田市4班連合小学校

(志学・北三瓶)

令和5年度大田市石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1 実施学年・人数 4班連合5・6年生7名

2 実施時期 令和5年9月～令和6年1月

3 学習のねらい

- (1) 石見銀山遺跡や大森の町並み等の現地見学を通して、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値や歴史について学ぶ。
- (2) 2校の児童が共に活動や学習をすることを通し、集団行動や協力の大切さを学ぶとともに親睦を深める。

4 学習内容

- (1) 【事前学習】石見銀山の価値や歴史について資料を使った調べ学習
いも代官ミュージアム 仲野義文館長による講話
- (2) 【現地学習】世界遺産センター、石見銀山遺跡、大森の町並み見学
- (3) 【事後学習】まとめの新聞、プレゼンテーションソフトによるスライドの作成と2校合同発表会

5 実際の学習の様子

(1) 事前学習

- ・パンフレット、DVD、本や資料、仲野館長さんの講話から、石見銀山の歴史や石見銀山遺跡の価値について知り、各自の課題を設定した。



(2) 現地学習

①世界遺産センターの見学



②大久保間歩、釜屋間歩の見学



③大森の町並み見学



～児童の感想～

- ・昔は電気がなく、ろうそくを使って鉱石をほっていてすごいと思いました。岩の上まで、ほつたあとや足場の木のぼうが残っていてあんなに高いところまで登っていたんだと分かりました。

(3) 事後学習

- ・現地見学で分かったことを手がかりにして、各校で自分の課題についての調べ学習をさらに進めた。
- ・分かったことを新聞やスライドにまとめ、2校合同で学習の成果発表会を行った。



6 学習の成果と課題

- (1) 現地学習を通して、当時の人々の暮らしや思いを想像したり、苦労や大変さを実感したりすることができ、理解がより深まった。
- (2) 昨年度温泉津地区を見学した6年生は、今年度大森地区を見学したことで、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」について広く学習することができた。5年生も来年度温泉津地区を見学し、さらに学びを深める予定である。

5 班

大田西中学校
仁摩小学校
温泉津小学校

令和5年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 学年・人数 1年生 39名

2. 実施時期 7月～12月

3. 学習のねらい

- ・世界遺産「石見銀山」の歴史や価値などについて知識・理解を深めるとともに、地域の人との交流を深め、情報収集能力、表現力、発信力を身につける。
- ・世界遺産「石見銀山」とSDGsを意識させ、地域の課題や現状に基づいた提案が出来るようとする。

4. 学習の内容

- ①ガイダンス 「SDGsとは」「石見銀山学習の概要」について。(SDGsカルタ、SDGsハンドブックを利用)
- ②石見銀山とSDGsとのつながりについての講演会「課題の確認、整理」(銀山資料館 仲野館長)
- ③SDGsミニ新聞を作ろう。「調べ学習(学校図書館、GIGAスクール端末等)」※1
- ④フィールドワーク 「代官所ゾーン」と「武家・町屋ゾーン」に分かれて現地学習を行う。※2
 - ・ガイドの方の説明を聞きながら、各自が設定したテーマについて調べる。
 - ・事前学習で生まれた疑問や質問をスタッフの方にインタビューをする。
- ⑤パワーポイントによるプレゼン資料作成
- ⑥ポスターセッション(本校の授業公開日に各教室でプレゼン)。その後、体育館で生徒が作ったSDGsカルタを保護者と一緒に行う。
- ⑦未来への提言(個人まとめ)作成

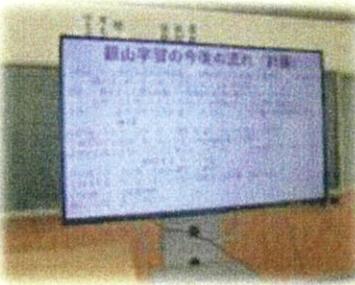
※1、2…本校ではNIE講座(新聞教室)を実施し、現地学習での取材の仕方や、まとめの活動である新聞の作成ポイントを学習する講座を開催した。

5. 実際の学習の様子

① ガイダンス



②講演会（仲野館長）



③SDG s ミニ新聞つくり



③ミニ新聞の発表会



NIE 講座



④フィールドワーク



⑤プレゼン発表の様子



⑥SDG s カルタに取り組む様子



【生徒の感想から】

- ・14番「海の豊かさを守ろう」の目標では大森が行っていた輪伐法などを知り、森を守ることで、海の資源を守っていくことにつながるのだと思いました。
- ・地域の特色や自然の美しさ、環境などのよさに気づき、少し前までは見えなかつたことを改めてみることで、多くの再発見がありました。
- ・これからの中未来や100年後の石見銀山の姿を思い浮かべたとき、自分のすべきことやできることだけじゃなく、もっと広い視点から、「みんなで」できることを考えたいなと思いました。
- ・フィールドワークに行き、実際に遺跡を観たり、ガイドさんの話を聞いて、より故郷を感じたし、大切にしないといけないという気持ちが強くなりました。

6. 成果と課題

- ・体験活動やフィールドワークを通して、実際に体験すること、実物を見て調べることで、石見銀山を身近に感じられ、その大切さに気づくことができた。
- ・調べ学習やレポートづくりを通して、情報収集能力や表現能力を育むことができた。
- ・世界遺産「石見銀山」についての学習を通して、ふるさとのよさを再確認し、自分の言葉で故郷の魅力を語ることができるようになった。
- ・世界遺産「石見銀山」とSDG sとの関連を意識させることで、様々な視点から自分事として捉え、具体的な取り組みや案をプレゼンすることができた。
- ・まとめの活動では、プレゼンとともにカルタを作成し、保護者と取り組むことで、親子一緒に楽しみながら学ぶ子ことができた。
- ・小学校で取り組んだ銀山学習と中学校の銀山学習とのつながりを考えて計画し、見通しをもって取り組んでいくことで、さらに深まるのではないかと感じた。

令和5年度石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1. 実施学年・人数 第3学年(23名)・第4学年(23名)・第5学年(24名)・第6学年(33名)

2. 実施時期 令和5年11月～令和6年2月

3. 学習のねらい
- ・石見銀山の魅力や仁摩町と石見銀山の関わりについての学習を通して、郷土への愛着と誇りを育む。
 - ・体験したり、調べたりしたことをまとめる活動を通して、思考力・判断力・表現力を養う。

4. 学習内容

学年	3年	4年	5年	6年
単元名	昔の人々のくらし	井戸平左衛門について調べよう	石見銀山と私たちの仁摩	輝け！石見銀山
ねらい	熊谷家住宅を見学したり、かまど体験をしたりすることで、石見銀山が栄えていた頃の人々のくらしや大森の町の様子について理解を深める。	仁摩町内や大森にある史跡を実際に見学して、石見銀山や井戸平左衛門について学習し、郷土の歴史への興味・関心を深める。	銀鉱山や出土品を見ることで、銀採掘の様子や人々の生活の様子について興味をもち、歴史や海外との結びつきについて理解を深め、ふるさとへの誇りと郷土を愛する気持ち、大切に守つていこうとする心情を育む。	石見銀山に興味をもち、大久保間歩や大森の町並み、世界遺産センター等の現地学習を通して郷土の貴重な歴史遺産や文化について理解を深め、ふるさとへの誇りと郷土を愛する気持ち、大切に守つていこうとする心情を育む。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・熊谷家住宅にてかまど体験を行い、当時の人々のくらしについて体験を通して学ぶ。 ・熊谷家住宅の中を見学し、当時の町のくらしの様子を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・井戸平左衛門について図書や資料などで調べる。 ・石見銀山や井戸平左衛門についてや、仁摩地域との関わりについて地域講師の話を聞く。 ・石碑、寺院、城跡等の見学をする。(仁万・宅野・大国、大森) ・新聞にまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前学年までの学習を想起し、石見銀山について関心をもつ。 ・世界遺産センターや大久保間歩の見学、熊谷家の体験学習を通じて、身近にある世界遺産について知る。 ・調べたことを新聞などにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年時までの学習を想起し、石見銀山について、課題をもつ。 ・調べ学習をする。 ・世界遺産センターや大久保間歩の見学、町並みの見学を通して、身近にある世界遺産について考える。 ・国語「町の幸福論」で自分たちのまちづくりについて考える。

5. 実際の学習の様子

■【6年】大久保間歩・世界遺産センター・町並み見学 〈令和5年11月16日（木）〉



【児童の感想から】

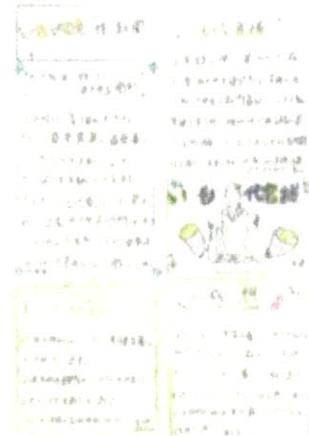
- ・大久保間歩では、昔の人が真っ暗な中でずっと作業していたことがすごいと思いました。ライトを消すと何も見えずにこわかったです。
- ・石見銀山の魅力や歴史を知ることができて良かったです。昔のままの町並みを保つために大森の町で工夫がされていることがわかりました。
- ・石見銀山で税金をとっていたことや、不正に銀を持ち出せないように考えられていたことを知りました。大久保間歩の中でとても高いところまで掘っていてすごいと思いました。

■【5年】大久保間歩・世界遺産センター・熊谷家住宅掃除体験 〈令和5年11月30日（木）〉



【児童の感想から】世界遺産センターは、出土したものがいろいろありました。昔は道具もあまりなかったけど、銀をほり出していてすごいと思いました。大久保間歩の中の地面はドロドロしていて、コウモリもいて、すごく大きくてびっくりしました。熊谷家は、毎朝45分間も掃除をしていてすごいと思いました。

■【4年】井戸碑・井戸神社等見学 〈令和5年11月9日（木）〉馬路鞆館見学 〈令和6年1月15日（月）〉



【児童の感想から】

- ・いも代官がサツマイモを薩摩の国からとつけてくれたからこそ、今の私たちが生まれたのだと思いました。
- ・井戸平左衛門はたくさん人の命を救ったヒーローだと思いました。もっといろいろなすごい人を調べたいと思いました。

■【3年】熊谷家住宅 かまど体験 〈令和5年11月13日（月）〉



【児童の感想】米のとぎ汁を洗い物に使うということを初めて知りました。洗剤を使わなくともよごれが落ちていてびっくりしました。昔の人は、米のとぎ汁や野菜の皮などをすべて使っていたり、お酒のとっくりも何度も使ってたりと、物を大切にしていたんだなと思いました。

6. 学習の成果と課題

- ・現地学習や調べ学習を通して、石見銀山と仁摩との関わりを知ったり、昔から大切にされている物やそれを支えてきた人々の思いに気づいたりすることができ、郷土への誇りと愛着を高めることができた。

令和5年度 石見銀山基金事業 石見銀山学習の概要

1 実施学年、人数 第6学年 18名、第5学年 17名、 第4学年 14名 第3学年 12名

2 実施時期 令和5年9月～令和6年2月

3 学習のねらい

- ・温泉津町や大森町での現地学習を通して、石見銀山と温泉津町との関わりを学ぶ。
- ・温泉津町での見学や取材活動を通して、温泉津町についての理解を深め、ふるさとに対する誇りと愛着の気持ちを育てる。

4 学習内容

	3年	4年	5年	6年
学年	大田の昔の くらしを知ろう	大森と井戸平左衛門	福光石について調べよう	魅力発信 ～温泉津の町並み～
学習内容	<u>○課題設定</u> <ul style="list-style-type: none"> ・身近にある昔の道具を調べる。 ・大田の昔のくらしについて予想する。 <u>○現地学習</u> <ul style="list-style-type: none"> ・熊谷家で昔のくらし体験をする。 ・昔の衣・食・住についての話を聞く。 ・熊谷家が当時受けもっていた役割について知る。 <u>○まとめ</u> <ul style="list-style-type: none"> ・学習したことレポートにまとめ、今の暮らしとのちがいを振り返る。 	<u>○課題設定</u> <ul style="list-style-type: none"> ・地域にある、井戸平左衛門の石碑を巡る。 ・井戸平左衛門・松浦屋与兵衛について、資料を用いて人物像や業績などを知る。 <u>○現地学習</u> <ul style="list-style-type: none"> ・井戸平左衛門・松浦屋与兵衛の行いやその時代の様子について知る。 ・大森町内の井戸平左衛門ゆかりの場所を見学する。 <u>○まとめ</u> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめをし、井戸平左衛門の生き方を視点に振り返りをする。 	<u>○課題設定</u> <ul style="list-style-type: none"> ・サヒメルの中村学芸員さんの話を聞き福光石について知る。 <u>○課題追及</u> <ul style="list-style-type: none"> ・福光石の採石方法や特徴・用途について調べる。 (現地学習) ・温泉津の町のフィールドワークを行い、福光石と人々の暮らしのつながりを理解する。 (現地学習) <u>○体験学習</u> <ul style="list-style-type: none"> ・福光石の加工体験をとおして、当時の技術や福光石のよさを理解する。 <u>○まとめ</u> <ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめをし、取組の振り返りを行う。 	<u>○課題設定</u> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産や石見銀山の概要を学ぶ。 <p>(講師：石見銀山資料館館長)</p> <u>○課題追究</u> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産センター、大森の町並み、いも代官ミュージアムを見学し、当時の様子を知る。 <p>(現地学習)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温泉津の町並みを見学し、温泉津の課題について考える。 (現地学習) ・温泉津の未来を考える。 <u>○体験学習</u> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆり盆づくりを体験し、当時の人々の努力や工夫について理解を深める。 <u>○まとめ</u> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容をもとに、温泉津と石見銀山との関係について、パワーポイントを使って発信する。

5 実際の学習の様子



熊谷家体験学習（3年）



熊谷家体験学習（3年）



栄泉寺見学（4年）



松浦屋与兵衛史跡見学（4年）



福光石石切り場見学（5年）



福光石と暮らしのつながり
～温泉津町内見学（5年）



ゆり盆体験（6年）



世界遺産センター見学（6年）



温泉津街並み見学（6年）

6 学習の成果と課題

○石見銀山や温泉津町が世界遺産に登録された意味を理解したり、地域の宝物としての「石見銀山」について考えたりする機会となり、地域に愛着と誇りを感じることができたと考える。

○銀山基金を活用することで、現地学習等の機会を今年度も多くもつことができた。現地学習を通して児童にとって幅広い学習の機会を設けることができた。

○事後学習（まとめ）については様々な方法で行ったが、地域の文化祭、学習公開日、学習発表会などの場を活用して、地域への発信を積極的に行っていくなどの学習活動の展開の工夫をしていくとよい。